

さて、みなさん、お待たせいたしました！今回は前回に引き続き「コミュニケーションの自己点検」の（ウ）からのスタートです！チェックポイントをしっかり押さえて、一度自己点検してみてくださいね。今まで見えていなかった事が見えて来るかもしれませんよ。少しでも皆さんに多くお届けしたいので、今回は坂井先生のプロフィールがない事をご了承ください・・・。

久田

第13回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

コミュニケーションの自己点検

（ウ）チェック3 どのような方法がその人に合っているのかを考えてみたか

その人とやりとりをするときには、合わせる努力をただけでは不十分です。具体的にどのような方法が合っているのかを考えなければならないということです。文字がいい人もいれば、シンボルコミュニケーションがいい人もいます。その人に合った方法を提案することが大切なのです。

どのような方法で伝えたらわかりやすく伝えられるのか。どのような方法で伝えてくることができるのか。周囲で支援する人からの情報も参考にしながら考えていかななくてはならないことだろうと思います。

（エ）チェック4 対象となる人の言い分を聞いてみる努力をしてみたか

対象となる人にも言い分があるのではないのでしょうか。これも聞くには勇気が必要であろうと思います。自分にとって都合のよいことばが返ってくるとは限らないからです。今日の訓練はどうだったのか。今日の調子はどうだったのか等、相手がどのように思っているのか、それを話してもらってもいいような環境を作らなければならないということです。そのためには、対象となる人の言いたいことを聴くようにする努力がいるのではないのでしょうか。

（オ）チェック5 対象となる人に分かるように伝える努力をしたか

対象となる人にはコミュニケーション障がいがあります。つまり、音声でのコミュニケーションが苦手な人ということです。その人に、予定などをどのように伝えるのでしょうか。音声でうまく伝えることができないとしたら、別のモダリティーである視覚等を使った伝え方が考えられるのではないのでしょうか。「何をするのか」、「どのようにするのか」、「どのくらいするのか」、「終わった次は何をするのか」ということについて、対象となる人に分かるように伝える努力をしなければならないのです。つまり、わかるように伝えるために、予定等を構造化するという事です。構造化することによって、見通しがもてるようになりその結果、安心して訓練に臨むことができるようになると考えられるのです。

構造化には、物理的な構造化（場所と活動が一对一で対応しており、そこに行けば何をすべきなのかがわかる）。スケジュールの構造化（いつするのがわかる）。ワークシステム（何を、どれだけ、どのようにするのがわかる）。ルーティーン（いつも同じような手順で取り組むようにする）。といったものが考えられます。言葉でうまく通じないから、わかるように伝えるための工夫をするということが、構造化するという事です。つまり、構造化は対象とする人にとっては受容性のコミュニケーションということになるのです。

どれだけするのかを時間で伝えることもあるかもしれません。「あと10分で終わります」といったように。この場合大切なことは対象となる人が、時間を量として理解することができるのかどうかということです。時刻は読めても時間を量として理解することができない人もいます。このような場合には、タイムエイドなどの利用も考える必要があるでしょう。学研から出ているケータイでちょっとコミュニケーションという本にも、携帯電話で使うことができるタイマーを紹介しています。参考にできればいいのですが・・・。

（カ）チェック6 対象となる人との間で、コミュニケーションの機会を作ったか

対象となる人はコミュニケーションが苦手であるということです。しかし、苦手だからそれでよいということではありません。練習の機会をもつことで、コミュニケーションの能力にも伸びが期待できるのです。つまり、家庭や学校、訓練の場は大切なコミュニケーションの練習の場であるということなのです。生活の中で必要なコミュニケーション支援をするとともに、適切なコミュニケーションの方法を練習することができれば、障がいのある人にとっての機能的なコミュニケーションの練習の場となるということなのです。

機能的なコミュニケーションの練習は、Functional Communication Trainingといわれています。そのコミュニケーション行動が起きる理由を調べ、望んでいる結果を獲得することができるように、別の方法でコミュニケーションすることができるように介入していく方法のことです。この方法は、周囲の人たちに受け入れられない行動に代わる新しいコミュニケーションスキルを教える上でも有効な方法であると考えられています。

（キ）以降は次回に続きます・・・